

---

# 第14回モニタリング会議 ご説明資料 (2017年4月～2018年3月業績報告)

2018年6月



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
□ 全社BS	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

## 計画と実績の対比（全社PL）

## 全社の事業再生計画第3期（2017年4月～2018年3月）実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル（旅行業）」との合算

	2018/1～3月	2017年度	2017年度	計画比 ②÷①	単位：百万円	
	第4四半期 実績	12ヶ月 計画①	12ヶ月 実績②		2016年度 前年同期 実績	前年 同期比
売上高	1,292	5,544	5,697	103%	5,780	99%
売上原価	141	577	697	121%	724	96%
差引収益	1,151	4,967	5,000	101%	5,056	99%
人件費	580	2,545	2,704	106%	2,650	102%
厚生費	108	302	399	132%	384	104%
動力費	99	529	387	73%	357	108%
修繕費	76	303	289	96%	326	89%
物件費	48	108	114	105%	105	109%
経費	220	1,010	978	97%	971	101%
諸税	16	105	77	73%	73	105%
減価償却費	125	473	486	103%	443	110%
営業費計	1,272	5,375	5,433	101%	5,308	102%
営業利益	-120	-408	-433	-	-252	-
営業外収益	17	56	93	167%	95	99%
営業外費用	17	70	68	97%	95	72%
経常利益	-120	-422	-407	-	-252	-
特別利益	1,052	513	1,206	-	644	-
特別損失	527	23	646	-	320	-
税引前当期利益	404	68	153	-	72	-
法人税等	41	17	53	-	34	-
当期純利益	364	52	100	193%	38	-

## ＜事業再生計画比＞

・売上高は達成、営業費では軽油単価の低位推移はあったものの、人件費の増などにより営業利益は未達となったが、経常利益、当期純利益は計画達成

- 【売上高】5,697百万円となり計画比103%
- 【売上原価】旅行事業部門の要因で増加したが、差引収益は5,000百万円となり計画比101%
- 【営業費】動力費が軽油単価の低位推移で計画内であったが、人件費・厚生費・物件費などが計画比増により101%
- 【営業利益】計画を下回る△433百万円
- 【経常利益】△407百万円であるが、計画比赤字幅縮小
- 【特別利益】運行等補助金、軌道事業の車両購入補助金・工事負担金受入額、有価証券売却益などで1,206百万円
- 【特別損失】固定資産圧縮損などで646百万円を計上
- 【当期純利益】100百万円の黒字で計画達成

## ＜対前年同期実績比＞

- 売上高・差引収益は前年同期比で微減
- 営業費は、前年同期比で人件費を中心に全体が増加
- 営業損益・経常損益ともに前年同期比で赤字拡大
- 当期純利益は増益

## ＜経費科目説明＞

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等  
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却  
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・固定資産圧縮損等

## 計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2017年4月～2018年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

## &lt;計画差異要因等&gt;

	2017年度 12ヶ月	2017年度 12ヶ月	計画比 ②÷①	2016年度 前年同期	前年 同期比
	計画①	実績②		実績	
売上高	1,085	1,031	95%	1,097	94%
売上原価			-		-
差引収益	1,085	1,031	95%	1,097	94%
人件費	737	831	113%	842	99%
厚生費	84	121	145%	120	101%
動力費	189	142	75%	130	109%
修繕費	120	118	98%	125	94%
物件費	29	28	97%	27	104%
経費	164	158	96%	175	90%
諸税	25	12	49%	12	100%
減価償却費	99	106	107%	89	119%
営業費計	1,446	1,516	105%	1,521	100%
専属営業損益	-362	-485	-	-424	-
減価償却前専属営業損益	-263	-379	-	-334	-

単位:百万円

## ✓ 売上高

- 2017年4月からのスクール線便数減少、10月からの安芸線移管による減

## ✓ 費用

- 人件費:人事制度改正による増、時間外手当増
- 厚生費:人件費増、科目計上ルール変更に伴う増
- 動力費:軽油単価の計画比低位推移
- 経費:自動車保険料の減等

## ✓ 専属営業損益

- 動力費の低減はあるが、収入の減、人件費の増加などにより、計画比▲123百万円の未達

## &lt;前年同期差異要因等&gt;

## ✓ 売上高

- スクール線便数減少、安芸線移管による減

## ✓ 費用

- 動力費:軽油単価の上昇による増
- 減価償却費:車両更新による増
- 修繕費:車両更新・減車による減
- 経費:自動車保険料の減など

&lt;専属営業損益とは&gt;

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

&lt;科目計上ルール変更とは&gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

## 計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2017年4月～2018年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2017年度 12ヶ月	2017年度 12ヶ月	計画比 ②÷①	単位：百万円	
	計画①	実績②		2016年度 前年同期 実績	前年 同期比
売上高	1,000	1,045	104%	1,050	100%
売上原価			-		-
差引収益	1,000	1,045	104%	1,050	100%
人件費	560	627	112%	591	106%
厚生費	70	94	134%	89	106%
動力費	77	80	104%	75	107%
修繕費	46	59	127%	75	79%
物件費	22	28	124%	24	116%
経費	60	66	110%	68	97%
諸税	15	6	39%	6	101%
減価償却費	45	34	76%	38	89%
営業費計	897	994	111%	967	103%
専属営業損益	103	51	49%	83	61%
減価償却前専属営業損益	148	85	57%	121	70%

&lt; 専属営業損益とは &gt;

✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

## &lt; 計画差異要因等 &gt;

- ✓ 売上高
  - 計画達成
- ✓ 費用
  - 人件費：人事制度改正による増、時間外手当増
  - 厚生費：人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
  - 修繕費：車両・設備修繕の増加等
  - 経費：ですかシステム更新賃借料、知寄町P&R賃借料等による増
  - 減価償却費：車両等資産の償却減
- ✓ 専属営業損益
  - 営業費増により計画比49.1%の未達

## &lt; 前年同期差異要因等 &gt;

- ✓ 費用
  - 人件費：人事制度改正による増、時間外手当増
  - 厚生費：人件費増による増
  - 修繕費：車両・設備修繕の減
  - 物件費：水道光熱費の増など

&lt; 科目計上ルール変更とは &gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

## 計画と実績の対比(全社BS)

2018年3月末時点のBSは、以下のとおりです

のれん代控除後の実態純資産は計画比+951百万円(計画286百万円、実績1,237百万円)

単位:百万円	0期			1期			2期			3期		
	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比
	15/3	15/3		16/3	16/3		17/3	17/3		18/3	18/3	
流動資産	1,658	2,235	577	1,573	1,965	392	1,384	1,634	250	1,362	2,037	675
現金預金	860	1,175	315	792	1,273	481	615	737	122	593	950	357
売上債権	577	821	244	560	492	-68	554	710	156	554	908	354
棚卸資産	82	73	-9	82	58	-24	77	60	-17	77	71	-6
その他	138	166	28	138	142	4	138	127	-11	138	108	-30
固定資産	6,112	6,319	207	6,137	6,196	59	6,060	6,355	294	5,997	6,610	613
有形・無形固定資産	4,787	4,759	-28	4,812	4,687	-125	4,735	4,785	50	4,672	4,828	156
(うち、のれん相当額)	935	935	-	810	810	-	685	685	-	561	561	-
投資その他の資産	1,325	1,560	235	1,325	1,509	184	1,325	1,570	245	1,325	1,782	457
資産の部	7,770	8,554	785	7,710	8,161	451	7,445	7,989	544	7,359	8,647	1,288
流動負債	1,167	1,620	453	1,124	1,333	209	1,100	1,374	274	1,101	1,892	791
仕入債務	798	1,121	323	789	880	91	774	1,006	232	769	1,480	711
その他	369	499	130	335	453	118	326	368	42	332	412	80
固定負債	5,603	5,630	27	5,666	5,392	-274	5,550	5,073	-477	5,411	4,957	-454
借入金	3,675	3,675	-	3,471	3,442	-29	3,272	3,152	-120	3,060	2,880	-180
その他	1,928	1,955	27	2,195	1,950	-245	2,278	1,921	-357	2,351	2,077	-274
負債の部	6,769	7,250	480	6,790	6,725	-65	6,649	6,447	-204	6,512	6,849	337
純資産の部	1,000	1,304	304	920	1,436	516	795	1,542	747	847	1,798	951
負債及び純資産合計	7,770	8,554	785	7,710	8,161	451	7,445	7,989	544	7,359	8,647	1,288

指標の検討	計画0期	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比
実態純資産(のれん控除後)	65	369	304	110	626	516	110	857	747	286	1,237	951
有利子負債	3,675	3,675	0	3,471	3,442	-29	3,272	3,152	-120	3,060	2,880	-180
D/Eレシオ	3.7	2.8	-0.9	3.8	2.4	-1.4	4.1	2.0	-2.1	3.6	1.6	-2.0
実態自己資本比率(のれん控除後)	1.0%	4.8%	3.8 <sub>対</sub>	1.6%	8.5%	6.9 <sub>対</sub>	1.6%	11.7%	10.1 <sub>対</sub>	4.2%	15.3%	11.1 <sub>対</sub>

路線バスの2017年4月～2018年3月利用状況：運送収入は前年比94%、IC利用客数は前年比89%

- 本表は運送収入のみ  
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

	2017/1～3月 3ヶ月 前年同期	2018/1～3月 3ヶ月 実績	2016年度 通期 前年同期①	2017年度 通期 実績②	前年 同期比 ②÷①
運送収入	251	236	1,067	1,002	94%
①定期全体	51	45	227	196	86%
②定期外収入	199	191	841	806	96%
うち、現金収入	109	105	454	440	97%
うち、SF	90	86	387	367	95%

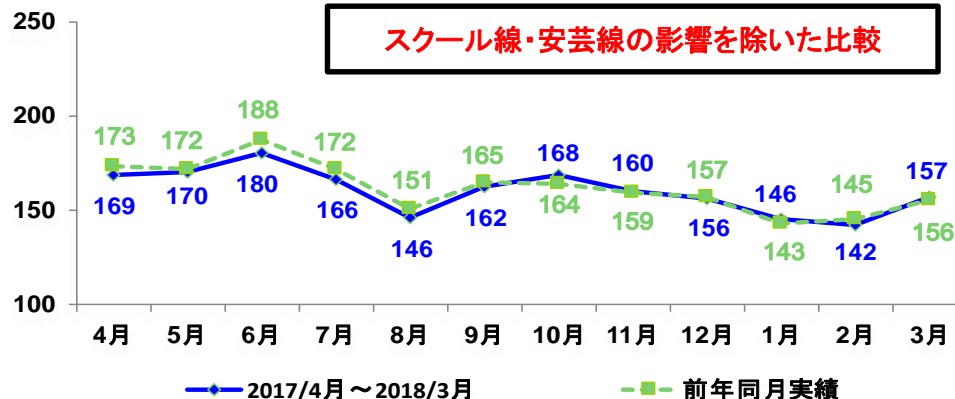
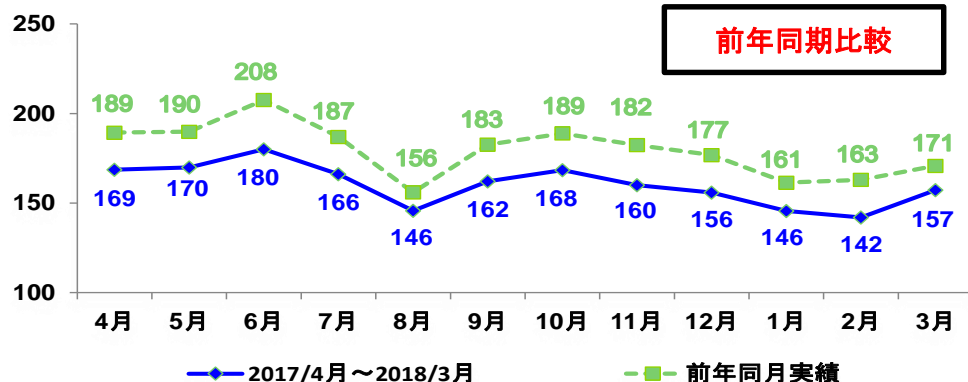
<路線バス収入の増減要因>

- ✓ 「ダイヤ改正による減キロ」  
 2016年10月1日 △3.0%  
 2017年 4月1日 △1.5% 10月1日 △4.8%
- ✓ 運送収入94%の要因は、2017年4月のスクール線の便数減少および10月の安芸線の移管による減少等

【運送収入】 ※スクール線は現金を除く 単位：収入(百万円)

	H28	H29	差
スクール線	42	9	▲33
安芸線(東部交通実績)		▲16	▲16

<利用客数推移> 単位：千人



<利用客について>

- ✓ 減少要因は、2017年4月からのスクール線便数減、10月からの安芸線の東部交通への移管などにより、年度累計のICカード利用客数は1,921千人、前年同期は2,155千人で89%であるが、前年同月分から、スクール線・安芸線の影響を除いた前年同期比では1,944千人で99%となる

【現金利用を含む総利用客数】※定期券は利用実績で集計

- ✓ 年度累計の総利用客数は3,144千人、前年同期は3,451千人で91%

- IC使用率は約65%(利用客数による)



## 公共交通利用状況（軌道）

## 軌道の2017年4月～2018年3月利用状況：IC利用客数は前年比99%、運送収入はほぼ前年並み

- 本表は運送収入のみ  
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

	2017/1～3月	2018/1～3月	2016年度	2017年度	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	通期 前年同期①	通期 実績②	
運送収入	218	222	936	932	100%
①定期全体	59	60	252	253	100%
②定期外収入	159	161	684	679	99%
うち、現金収入	105	108	452	454	100%
うち、SF	54	54	232	225	97%

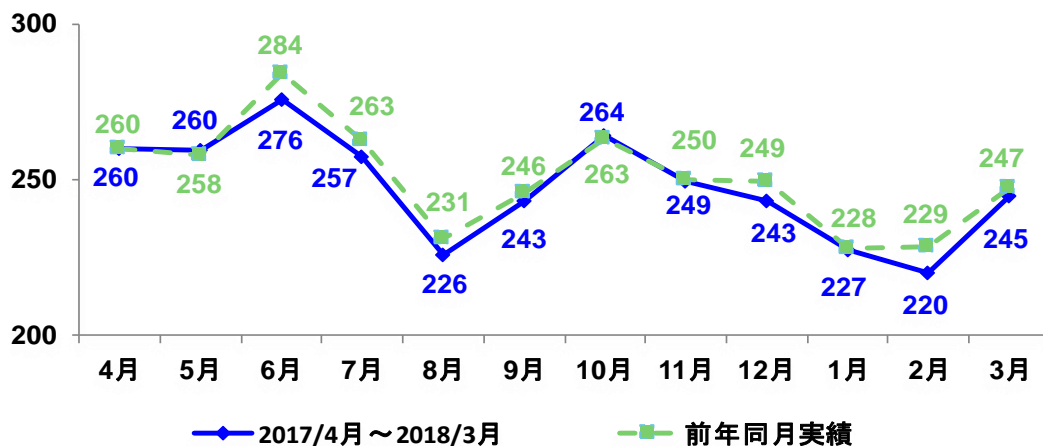
## ＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は、前年同期比99.6%と微減
- ✓ 「雨天日」は、2017年4月～2018年3月で前年比+19日
- ✓ 雨天日が前年より19日多いが、台風の影響により、7月に学校休校、8月・9月・10月に部分運休あり、収入を押し下げ  
一方で、志国高知幕末維新博による観光客の入り込み、各種利用促進施策の取り組みなどの効果もあり、ほぼ前年同期並みで着地

## ＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比、4月横ばい、5月・10月は増加、その後は減少
- ✓ 年度累計のICカード利用客数は2,971千人、前年同期は3,009千人で99%
- ✓ 減少要因は、台風による7月の学校休校(1日)、8月・9月・10月の部分運休(各1日)の影響。2月は休日が対前年比+1日

## ＜利用客数推移＞ 単位：千人



## 【現金利用を含む総利用客数】※定期券は、1枚×60人で集計

- ✓ 年度累計の総利用客数は6,124千人、前年同期は6,081千人で100%

- IC使用率は約50%(利用客数による)



## 公共交通取組状況

## 2017年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです

内容	路線バス	軌道
■2017年4月1日～2018年3月末		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ローラー活動(横浜ニュータウン/福井/旭町/加賀野井ほか)年間延べ8回	○	○
3. 婚活電車の運行 4月、5月、6月、11月	-	○
4. 電車の日イベント 5月	-	○
5. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
6. 公共交通体験プログラム(電車とバスで高知をうろちよろ) 6月	○	○
7. 防災訓練 6月	○	○
8. 春・夏・冬休み!バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
9. 子育て応援団～すこやか2017～ ブース出展 7月～	○	○
10. バスキッズイベント 7月・8月	○	-
11. 電停への「まんが観光案内版」設置 8月	-	○
12. とさっ子タウン2017 イベント出展 8月	○	○
13. 「市商・とさでんプロジェクト」の取り組み 8月、9月	-	○
14. ですかキャンペーン実施 9月～	○	○
15. 小学生を対象とした出前授業(十津小/介良小/大篠小他)年間延べ7回	○	○
16. 伊野商業前電停改良による供用開始 9月	-	○
17. 交通安全ひろば ブース出展 9月	○	○
18. RKCランド ブース出展 9月	○	○
19. 車庫見学の受け入れ(加茂小/佐川小/蓮池保育園ほか)年間延べ12回	-	○
20. 鉄道の日イベント開催 10月	-	○

内容	路線バス	軌道
■2017年4月1日～2018年3月末		
21. HI-SIX リレーマラソン ブース出展 12月	○	○
22. 事故訓練、総合脱線復旧訓練 12月	○	○
23. 八代通電停移設に伴う電停のバリアフリー化 12月	-	○
24. 新春初詣きっぷ 1月	○	○
25. こうち環境博2018 こどもワンダーランド ブース出展 2月	○	○
26. 「土佐のおきやく2018」ブース出展 おきやく電車運行 3月	○	○
27. 超低床式電車「ハートラムⅡ(3001号)」出発式、営業運行開始 3月	-	○
■2018年4月1日以降(参考)		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ですかキャンペーン実施 4月～	○	○
3. 日産サテリオ高知 交通安全フェア 4月	○	-
4. 車庫見学の受け入れ(児童福祉施設) 4月	-	○
5. ローラー活動(棧橋通三丁目～棧橋通五丁目) 4月	-	○
6. 電車の日イベント 5月	-	○
7. 設置型バスロケ運用開始 5月	○	-
8. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
9. 公共交通体験プログラム(電車とバスで高知をうろちよろ) 6月	○	○
10. 防災訓練 6月	○	○

2017年4月～2018年3月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2017年度 設備投資計画実施内容】

単位：百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	178	補助車両(5輛)の購入	103	106	安全安心、利便性向上	補助車両(ノンステップバス5輛)購入
		利用促進・増収施策	0	3	利便性向上	設置型バスロケ(社内3カ所、社外2カ所)
		その他	75	29	安全安心、利便性向上	管理システム、バス車載器、中古車両1輛購入他
軌道	322	低床車両の購入	250	250	安全安心、利便性向上	超低床式電車1輛購入
		車両冷房装置(2基)	17	17	利便性向上	2基購入
		き電線改良	11	12	安全安心	一条橋～小籠通間
		ドライブレコーダー	9	28	安全安心	全車両設置(投資計画は20輛分)
		その他	35	59	安全安心他	車両工場の電車屋根上点検施設改良および増設他
合計	500			504		

- 軌道の車両購入(1輛:250百万円)は、再生計画上2016年度の投資予定であったが、車両メーカーの製造計画の関係で2017年度へ持ち越し
- 一宮BT建替は、棧橋集約費用の一部として2016年度に50百万円を予定し、2017年度へ持ち越したが、土地売却・整備計画遅延により2018年度へ持ち越し
- 路線バス低床化率 49.2%(平成30年3月末時点)【路線バス車両数 130輛(空港連絡除く)、うち低床車両 64輛】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位：百万円

		計画0期	計画1期	計画2期	計画3期	計画4期	計画5期	累計	
		15/3半期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期		
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120	138			474	67.4%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116	366			658	80.1%